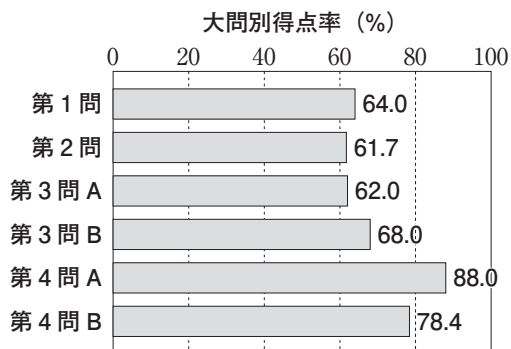
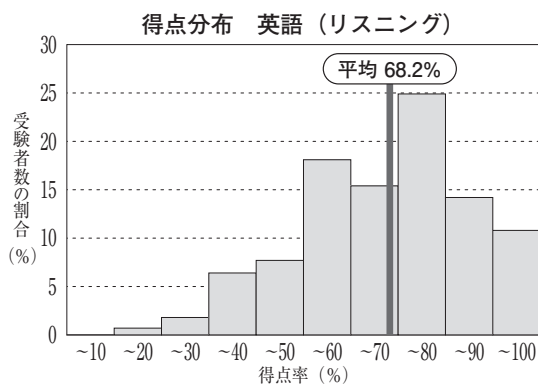


# 英語 (リスニング)

現時点での課題を自覚し、早めに対策を立てよう。

## I. 全体講評

今回初めてセンター試験本番レベル模試を受けた人たちは、まず試験の特徴をよく知ってほしい。そして、筆記問題と同様、リスニング問題の出題形式やレベルに早く慣れ、徐々に得点力を向上させてもらいたい。今回の受験学年の平均得点は34.1点で、得点分布は下のグラフのようになっている。全体の得点率に換算すると約68%で、良好な出来であった。大問別に見ると、最高が第4問Aの88.0%、最低が第2問の61.7%であった。それぞれが50%を大きく上回り、バランスよく得点できていた。ハードルの高い第4問でも安定した力を見せたことは高く評価してよいだろう。正解を得られなかった問題については、解説を参照しながら、つまづいた理由をはっきりさせておくようにしよう。



## II. 大問別分析

### 第1問 対話の聞き取り (数値・語句・イラスト選択)

#### 課題を残したイラスト問題!

第1問の得点率は64.0%で、かなりよくできていた。小問別正答率を見ても、6問中5問が50%台後半から90%までとハイレベルで安定していた。唯一30%台だったのが、問1のイラスト問題であった。第1問は短い会話を素材としていて、リスニングの基礎力を測るのに適しているが、その中にイラストなどの視覚情報や数値に関する問題が含まれるのが特徴である。一般的に言えば、特に紛らわしいのが数値問題である。今回の場合は、全体としては無難に切り抜けていたが、視覚問題と並ぶトリッキーな要素なので、過去のセンター試験でどのような出題例があったかを十分把握しておこう。また、視覚情報についても、昨年からは図表(グラフ)を用いた新傾向が見られる。それも含め、今後の本模試を通じて対応力を高めて欲しい。

### 第2問 対話の聞き取り (応答文選択)

#### 手がかりをしっかりとつかもう!

適切な応答文を選んで、対話文を完成させる問題。今回の第2問の得点率は61.7%で、今回の大問の中では最も低かった。小問別の正答率では70%台が2問、60%台が3問あったが、40%台に留まった問題も2つあった。正答率が最も低かったのは問12である。ここでは、最初の男性の発言にあるように、「芝居」が話題になっていることをつかむ必要がある。しかし、短い読み上げ文の中で、それに直接言及しているのはplayという単語のみである。冒頭のplayだけで即座に「芝居」に結びつけるのは無理なので、a new play in townやsee it with me tonightなど、どのような語句とともに使われているかを手がかりにする必要がある。このように、第2問は短い対話を素材とするので、聴き取る量は少ない反面、わずかな情報から、場面や状況、人物関係、発言の目的などを判断しなければならない難しさがある。

### 第3問 A 対話の聞き取り (質問に対する答えの選択) 決め手となる語句をとらえよう。

短い対話文に基づくオーソドックスな内容一致問題。第3問Aの得点率は62.0%で、今回の大問の中では低い部類に入るが、決して悪い出来ではない。ただし、小問ごとの正答率を見ると、20%台が1つ含まれ、全体に大きく響いてしまった。問題の箇所は問16で、対話が行われている場所を問うたものである。読み上げ文には、beefやsteak、at half priceやat the registerなどの語句が含まれ、店員と客との会話だということがわかる。これだけを見ると、場所としては③「ハンバーガーショップ」で、④「レストランで」なども候補になりそうに思われる。ところが、ground (grindの過去分詞)やtake two pounds (2ポンドいただく)、wrap up (包む)などの使われ方も考慮に入れると、やはり①「精肉店で」が最適である。ここは短い対話に基づく単純な設問形式ではあるが、ちょっとしたヒントにも注意が欠かせない。

### 第3問 B 長めの対話の聞き取り

#### 紛らわしかったビジュアル問題！

第3問Bは長い対話文を聞いて、内容一致問題に答えるパートである。今回の得点率は68.0%と、かなりの好成績を示した。全体的な成績はよかったが、正答率の内訳を見ると、80~90%台がある一方で、30%台の小問も1つあった。正答率が低かったのは問19である。地図を見ながら、行き先を推定する問題であるが、正解の③に対して、①②を選んだ人もかなり多かった。解説にもあるように、この問題では位置関係を表す言語情報と地図上の視覚情報をいかに一致させるかがポイントである。ここで使われたeast [north] of~, next to~, at the other side of~などの位置関係を表す語句には、聞きながら即座に反応できるように十分習熟し、対応力を高めておきたい。

### 第4問 A 長めの文章の聞き取り

#### この調子を最後まで持続しよう！

第4問Aはひとまとまりの英文を聞いて、内容一致問題に答える箇所である。今回の第4問Aの得点率は88.0%と非常によくできていた。小問別の正答率を見ても、すべて80%台後半以上で安定していた。第4問ともなると、聞き取る分量もさ

ることながら、内容面でも複雑になる。その内容をいかに総合的かつ的確に把握できるかがポイントである。また、内容一致問題の性格上、本文と選択肢では同じ表現を避けるのがふつうである。こうしたことから、センター試験のリスニング問題では最も難しい箇所と言える。まだ満足のいく成績を取れなかった人は、今後トレーニングを積みながら、対応力を高めていてもらいたい。

### 第4問 B 長めの会話の聞き取り

#### 最後の難関をうまく切り抜けた！

リスニング最後の問題である第4問Bは長い会話を素材とした内容一致問題である。その長さゆえにハードルの高い大問であるが、今回の得点率は78.4%ということで、非常によく対応できていた。小問別の正答率も、60%台から80%台後半と高いレベルで安定していた。今回の場合、話題そのものが学校生活に関する日常的なものだったこともプラス材料だったかもしれない。しかし、いつも同じような条件がそろうとは限らない。今後のトレーニングを積む中で、問題形式に慣れると共に、こころ一つという時に求められる集中力を養って欲しい。

## Ⅲ. 学習アドバイス

### ◆英語の音に耳を慣らそう！

リスニング方向上の基礎はまず耳慣らしである。個別に取り出された単語の発音とは異なり、文単位の発音では、音の連続によって新たな音が生じたり、子音などが脱落する現象が多く見られる。これが、英語の聞き取りを難しくしている最大の理由の1つである。したがって、こうした英語の音の特徴に慣れるためにはできるだけ多くの英文を耳からインプットする必要がある。

また、読み上げ文はナチュラルスピードで読まれるので、理解のスピードが追いつかないというケースもある。これを克服するには、耳で聞いた英語を素早く理解するための訓練が必要である。そのために、音読を習慣としたい。音読をするスピードで英語を理解する訓練をすれば、「聞いて理解するスピード」も必然的に高まる。易しいもの、あるいは以前に読んだものでよいから、一定の速度で、読み返さずに前から一気に読み、意味をつかむようにするのである。速読力と聴解力は相乗効果を生むであろう。